

平成 20 年度第 2 回新潟空港アクセス改善検討委員会を 開催しました

新潟県は、関係機関等の協力により、新潟空港のアクセス改善について、平成 18 年 12 月の「新潟空港アクセス改善検討委員会」の提言を受け、事業効果の検証や情勢の変化を踏まえた継続的な見直しを行いながら、超短期、短期、中・長期と段階的取組により進めています。

本年度も有識者による「新潟空港アクセス改善検討委員会」を設置し検討を継続していますが、このたび第 2 回の会議を開催いたしました。会議の概要は以下のとおりです。

記

1. 日時・場所

平成20年7月17日(木)10:00～11:30

新潟県自治会館 別館9階 902会議室 新潟市中央区新光町4-1

2. 委員の構成、会議資料 添付資料のとおり

3. 主な議論・発言等

(1) 短期的取組（南口空港バス新設）

○ 新潟駅南口空港バスの事業提案について

事業者選定に際し、公募条件の設定、事業者からの提案への評価といった募集要項を念頭に置いた手続の進め方等について、事務局から説明を行い、意見交換を行った。

- ・ 事務局から説明のあった内容を基本として、募集要項の策定、事業者選定委員会の設置など公募手続を進める。
- ・ 行政からの経費支援については、個別項目毎でなく全体で判断できるようにする方向で調整を進める。

主な委員意見

提案事項について

- 事業者の独自性をアピールできる内容を含めるべき。

提案に関する与条件等について

- 募集要項では、行政からの支援等の説明をよりわかりやすく記載する必要がある。
- 行政からの経費支援は個別項目毎にいくらと決めてしまうのではなく、総枠で検討できるよう考慮すべき。
- 万代ルートと南口ルートが並存するようでは採算面で厳しいだろう。

- バス事業者の採算面を踏まえ、事業として継続できるような仕組みを考えて欲しい。これからの新潟の交通のあり方等を含め検討、調整を行って欲しい。

○ 現行の空港バス利用者への対応について

- ・ 既存利用者の利便性を損なわないよう既存事業者等と調整を図る必要がある。

主な委員意見

- 空港方面へ運行している既存の路線を活用する等して、利用者の利便性を損なわないよう調整を図る必要がある。

○ 南口空港バスの募集要項について

本日の検討結果等を踏まえ、行政支援も含めた最終調整を行った上で決定する。

主な委員意見

- 募集要項では、行政からの支援等の説明をよりわかりやすく記載する必要がある。

○ 南口ルートのバスによる所要時間調査結果について

新潟交通による南口ルートの「所要時間調査」について、事務局から説明を行い、意見交換を行った。

主な委員意見

- 政令指定都市にある空港の中で中心部からもっとも近いという新潟空港の売りを損なわないようにしてもらいたい。

○ 「新潟駅南口空港バス新設」パブリックコメントの結果概要について

5月28日から6月26日まで、県及び新潟市で実施した県民意見募集（「新潟駅南口空港バス新設による基本的なサービス提供方針」について）の結果の概要について、事務局から説明を行い、意見交換を行った。

最終的な取りまとめや県・新潟市の対応案は委員に情報提供を行った上で、公募開始前に公表する。

主な委員意見

（特になし）

（2）その他

○ 短期的取り組みと中・長期的取り組みについて

主な委員意見

- バスのグレードアップも含めて中・長期を論ずる必要があるのではないかな。
- 短期と中期は並存する可能性もある。そのときの社会情勢等に応じて検討を行うことになる。
- 空港の利用客を増やすという大局的な視点からこの検討委員会の位置づけを考えるべき。

- 長期的にどこまで空港利用者を伸ばすのかという観点を踏まえて議論を進める必要がある。

○ PRについて

主な委員意見

- 新潟空港利用者を増やすための努力が必要。航空便利用者だけでなく空港見学等により空港を訪問する人を増やすPRを行う必要がある。
- 国体関係者へのPRを行う必要がある。

- 次回検討委員会では、南口空港バスの本運行開始前の最新の情報と、中・長期案の検討経過について報告する。

本件についての問い合わせ先
交通政策局 港湾振興課 企画班 内線 3458
担当： 中川、原田、覚張